

彙 報

京都大学文学部西アジア南アジア史学

1 講義題目 (昭和38年)

講義	教授	足利惇氏(前)	西アジア南アジア	研究	講師	松井 透	インド社会の植民地的支配
	教授	羽田 明(後)	ア史学序説				
研究	//	織田武雄	西アジアの地誌学的研究	//	//	吉川 守	シュメール語の研究
	//	羽田 明	中央アジア史研究	//	//	岩本 裕	東南アジアに於けるインド文化
	//	岩村 忍	遊牧民族史	演習	助教授	大地原豊	梵語文法
	//	助教授 棚瀬襄爾	東南アジアの民族	//	講師	伊藤義教	(A)中期ペルシア語
	//	本岡 武	東南アジアの人文地理学的諸問題	//	//	城崎 進	ヘブライ語文法
	//	講師 伊藤義教	天教パフラヴィー語文献の諸問題	語学	教授	羽田 明	トルコ語
	//	//	中村孝志	//	助教授	西田龍雄	ビルマ語学
	//	藤本勝次	インドネシア近世史	//	講師	加藤一朗	ヒエログリフ講読
	//		初期イスラム時代エジプトの租税制度について	//	//	加賀谷寛	近世ペルシア語
	//		加藤一朗	//	//	内田紀彦	ヒンディ語学
	//		古代エジプト文化の形成	//	//	中西龍雄	マライ語 (初級)
	//			//	//	//	// (上級)
	//			//	//	田中四郎	アラビア語 (初級)
	//			//	//	//	// (上級)

2 卒業生と卒業論文 (昭和38年3月)

佐藤陸雄氏：コーランに現れたる 'abd について。

会 報 ほ か

○本会例会 (昭和38年)——第1回 (日本オリент学会関西部会と共催)：2月9日午後1時半、於大阪商工会館、岩本裕氏「古代オリентにおけるアーリヤ人について」。第2回 兼本会総会：4月25日午後4時、於京大人文科学研究所分館ホール、樋口隆康氏「西アジア・南アジアの旅 (スライド使用)」。本総会において副会長中原与茂九郎氏の辞任に伴い副会長に織田武雄氏、また新たに編集長に羽田明氏を迎えることになった。○京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査隊 (第3次。本誌前号参照) はアフガニスタンのオゾル・スモ石窟を実測調査、パキスタンのチャナカ・デリで王宮のごとき建物を発掘、メハ・サンダではストッパーを中心とする仏教遺跡を発掘、そのほかアフガニスタン南部、イラン東北部、ガンダーラ地方の諸遺跡を踏査した。水野清一隊長と林巴奈夫氏は37年12月に帰国、小谷伸男氏はインドの諸遺跡踏査後1月帰国、西川幸治氏も同じくインドを回って2月帰国、樋口隆康氏はインド、タイ、カンボジアの諸遺跡を踏査して3月帰国、応地利明氏はインドからネパールを踏査して5月帰国された。○京都大学東南アジア研究センターは本年1月8日付で発足した。東南アジアの総合研究と同研究に関する連絡調整、研究資料の収集整理を目的とする全学的な組織、所長は農学部長奥田東教授。諸般の予備調査折衝のため岩村忍氏 (京大人文科学研究所教授) が4月12日羽田発現地諸国視察の上5月18日羽田に帰着された。○日本オリент学会の季刊誌「オリент」Vol. V, Nos. 3・4は37年12月、同じく年報 (欧文誌)「ORIENT」Vol. 2も同時に発行、後者には岸本通夫氏ほか諸氏の論文登載。

会 員 消 息

○石川崇吉氏（神戸大学文学部助教授）は神戸大学南太平洋諸島学術調査隊に参加して、37年6月出発、東ポリネシア、特にマルケサス諸島の調査を行なって12月帰国された。○田中四郎氏（大阪外国語大学講師）は37年10月27日羽田発、レバノン、シリア、アラブ連合、エチオピア、ケニア、ウガンダ、アデンに「アラビア語の話し言語」を調査の上12月14日羽田に帰着された。○貝塚茂樹氏（京大人文科学研究所教授）は国際リアリズム会議（於ダートマス大学）に出席のため37年7月渡米、10月帰国された。尚お同氏は37年11月に行なわれた第6期学術会議議員選挙に近畿地区から立候補、当選された。○井上智勇氏（京大文学部教授）は同じく同選挙に全国区から立候補、当選された。○フォン・ガヴァイン博士（ハンブルク大学教授）は37年12月12日京大文学部会議室で「中世中央アジアの文明——西ウイグル王国の社会と文化——」の題下に講演された。○山澄元氏（京大文学部助手）は1月1日付をもって大阪学芸大学講師に任ぜられた。○中山正善氏（天理教真柱）は2月3日羽田発北米経由ブラジルほか22か国を視察巡遊の上3月21日大阪空港に帰着された。○佐保田鶴治氏の「インド正統派哲学思想の始源」は2月15日創文社から出版。○吉田光邦氏（京大人文科学研究所助教授）の「鍊金術」は3月5日発行（中公新書）。○勝藤猛氏（京大人文科学研究所助手）は4月1日付をもって大阪外国語大学講師（ペルシア語担当）に任ぜられた。○上野照夫氏（京大教養部教授）の「インド」は4月1日発行（保育社カラーボックス）。○佐藤陸雄氏（集報前ページ参照）は4月1日毎日新聞社に入社された。○三笠宮殿下（日本オリエント学会会長）は妃殿下ご同伴4月9日羽田発トルコへ、国賓としてヒッタイト遺跡その他ご見学の上同月22日羽田に帰着された。○松平千秋氏（京大文学部教授）は滞独半年の予定で4月15日羽田発マインツ大学へ。○中原与茂九郎氏（京大教養部教授、本会副会長）は4月16日停年退官と共に副会長をも辞任された。氏の退官講話は「楔形文字に魅せられて」の題下に京大教養部D号館31室で前日午後3時20分羽田明教授の開会の辞、教養部長代理田原教授の挨拶のあとをうけて開始された。平沢京大総長はじめ春雨について雲集された教官学生諸氏を前に、教授の辿られた学跡を回顧し師恩友愛に謝しつつ現在の業績に及び、或いは学界を展望し或いは学徒を inspire し、トウトウ1時間40分。与えられた多大な感銘は万雷の拍手を喚んで暫し鳴りもやまなかった。西田教授の閉会の辞があって記念撮影があり、引きつぎ楽友会館二階ホールで晩餐会が催され満堂の参席者をえて盛況、諸氏もごも立って教授の学徳をたたえ、記念品目録の贈呈などあり、8時すぎ一同会場にどよもす拍手をもって、退席される教授を惜別した。尚お氏は西南アジア研究会に基金として金15万円を寄託された。○岩村忍氏（集報前ページ参照）——井上靖氏との分担執筆に成る「西域」は4月30日発行（筑摩書房グリーンベルト・シリーズ）。○内記良一氏は5月1日付をもって東京外国語大学助手（アラビア研究室）に新任され、埼玉県朝霞町藤折上原444、照山荘に移転された。○西田龍雄氏（京大文学部助教授）は「ヨーロッパ各国のアジア・アフリカ言語文化研究の実情調査のため」文部省派遣の調査団に参加して5月15日羽田発渡欧6月17日帰国された。○内田紀彦氏（大阪外国語大学助手）はインド政府奨学金留学生として5月25日神戸発渡印、カルカッタ大学に2か年留学の予定。○臼井二尚氏（京大文学部教授）8月27日停年退官される同氏の停年講話は6月21日午後1時から京大法経第2教室で「人間と社会」の題下に行われ、引きつぎ楽友会館で記念茶話会が催された。因みに同教授退官記念事業会は1口（500円）以上の募金中である。○小野山節、山本茂、吉川守3氏（3氏とも本号執筆者）からそれぞれ5,000円、加藤一朗氏（関西大学助教授・京大講師）から10,000円、本特集号の出版資金として寄託された。